

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103327		
法人名	医療法人社団 まえだ整形外科 外科医院		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	香川県高松市伏石町2008番地5		
自己評価作成日	平成22年12月3日	評価結果市町受理日	平成22年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhvou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770103327&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhvou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770103327&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を大切に行事や料理を提供し楽しんでいただいている。</li> <li>・また入居者で行うことで昔の思い出話などの話題作りをしている。</li> <li>・入居者・職員が助け合い、頼りあいがらの生活が自然とできて役割作りができています。</li> <li>・地域行事にも参加させていただき、入居者の良い表情が見られる。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>組織として、職員の利用者に対する主体的活動を引き出していこうとする職員育成の活動方針や姿勢がある。それは日々の業務のなかで、職員自身に利用者の個人としての尊厳を大事にするとはどういうことかを考える機会や実践する方法を考えさせている。また、利用者間の雰囲気や職員との関係からも、職員が利用者を暖かく見守るという姿勢が強く感じられる。</p> <p>週に一度のスローライフの日を設定し、事業所のスケジュールにとらわれない時間の過ごし方を利用者へ提供している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム すずらん(第1ユニット)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を理解し、地域生活の継続と地域との関係性の持てる理念を作成している。毎朝唱和し施設内の目立つところに理念を掲げ日々確認している。	毎日、職員各自に今日どのようなサービスを利用者に提供しようと考えているかを発表してもらっている。このことで、理念に沿った活動を自主的に考えられるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者との散歩や買い物時に気軽に挨拶が出来る関係を作っている。イベント開催時には参加を呼びかけたりボランティアの受け入れなど地域の住民と交流が図れるようにしている。自治会の清掃活動・防災訓練などにも参加している。	実習生と手作りクッキーを持って近所の家庭を訪問し、施設の紹介に回った。近隣に商店が多いので、近所の理髪店や化粧品店を利用し、利用者と共に買い物に出かけたりする。外出の際は商店の協力も得られ、利用者の反応もよい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会・民生委員の方達との話し合いはしているが、地域の方達に貢献するまでには至っていない。しかし人材育成の貢献として実習生の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに運営推進会議を開催し事業所の取り組み内容等の情報交換を行なっている。質問・要望・改善提案をいただきサービスの向上に活かしている。	会議の中で施設内が見えにくいという声があり、施設内の見学を検討したり、開放的にする取り組みを行っている。	家族会の参加の便宜を考えて、運営委員会と同日に開催しているが、それぞれを別の会議として開催し、本来の目的が達成されるように検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく困難な事例に関しては包括支援センターに助言指導を受けられる関係作りを行っている。	困難事例の相談や判断に迷う事例の場合、相談をしている。対処方法について意見交換を行うことで情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の身体拘束の具体的な行為に関しては施設全体で年に1回は、勉強会にて職員は理解把握している。玄関の施錠については、チェック表にて管理し、なるべく開錠する時間を増やすようにしている。	職員間で身体拘束に関する理解を深め、共有できるように学習やミーティングを行っている。利用者に問題行動があった場合は、その原因を追究することを優先させ、問題行動の軽減や緩和に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会で年に1度は虐待について学ぶ機会がある。職員は虐待に対する理解は持っており、防止に努めている。また発見したときの対応は周知している。		

グループホーム すずらん(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の中で制度を利用した入居者はいない。全ての職員が権利擁護について学んで理解があるとはいえない。今後、必要な入居者には制度が活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約の時は文書を読み上げ十分な理解を得た上で、署名捺印いただいている。また料金改定時には運営推進会議・家族会の了承を得た上で改定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・入居者のご意見・要望・苦情の窓口は定めているが、どの職員でも受け付けられるような体制をとっている。また毎月の請求書発送時に苦情受付の用紙を同封している。	玄関に意見箱を設置し、家族の意見や苦情を出しやすくしている。請求書送付の際には、家族への手紙や、すずらん通信、利用者の写真を同封して近況を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや勉強会において、運営者・管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、年2回程度の個別面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	新人には定期的面談の機会を設けている。職員には自己成長のために「セルフチェック表」を作成しており、毎日の記録をしている。これに施設長や管理者がコメントを記載し、双方の情報共有や学びの機会につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は作成している。設立母体が医療機関である為、職員の健康診断・予防接種など健康を保つ為の対応は行っている。また、資格取得のための支援も行っている。研修も積極的に参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回施設全体・各部署における勉強会を開催している。また広く研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟しているが、職員や管理者が同業者と積極的に交流する機会はない。リーダー研修での他施設実習から交流を持ちたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談受付と段階をふみ、入居いただく前の期間には電話などで経過及び相談の支援を行っている。何度かご本人・ご家族とお会いし安心して入居いただけるよう支援している。入居後は施設生活に慣れ親しんでいただけるように不安を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談の段階から困っていること不安や今までのご苦勞など、どんなことでも聞き取り信頼関係を築くようにしている。その段階で可能な限りの相談や助言はさせていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の段階から困っていること聞き取りを行い、即時的なニーズの把握に努めている。当施設より利用者にとって最適なサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分でしてもらえるようにしている。家事など協力して行っている。職員は入居者を人生の先輩として尊敬の念を持って接している。学び支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の様子やエピソードを(面会時や電話・家族報告書・すずらん便り)伝えることと、相互の信頼・協力関係を築くようにしている。病院受診などは、緊急時以外は家族に依頼し付き添ってもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り個人個人の生活習慣を理解し尊重している。身近に家族のいない入居者は盆・正月の墓参りや買い物などに付き添っている。	個別外出の機会を作り、お墓参り、近所の理髪店や買い物といった機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の役割分担をする事で入居者間の協力関係の構築に努めている。職員が調整役になるだけでなく、入居者のムードメーカーになる方にも力を発揮していただき、孤立した存在を作らないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院され退居された方にもお見舞いに行ったり、ご家族が相談に来所されるなどの支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、主体はあくまでも入居者であるという認識を持っている。言葉での表現が充分でないとしても表情や態度で意思を汲み取るようにしている。ただ意思の表出の困難な方については、ご家族から情報を得てなるべく本人の意志に近いものにするように努めている。	毎日、職員が記載している「セルフチェック表」は個人の感性を育成するものとなり、利用者の観察やその人の気持ちを把握するのに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、差し支えのない範囲でバックグラウンドに関する情報をいただいている。特に施設に適應していただくまでの支援にとって重要な情報である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの習慣やリズムを把握し、可能な限り個人のペースを尊重するようにしている。また能力も決め付けることのない様、柔軟な見方ができるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの新規・更新時には、必ず本人ご家族から要望を聞いている。職員全体でモニタリング、カンファレンスを行い、主治医・看護師・理学療法士・歯科医師等関係者の意見を取り入れ、可能な限り入居者主体の介護計画を作成している。	看護師や理学療法士もカンファレンスに参加し、あらかじめ聞いておいた家族の希望とともに計画が作成されている。作成後も家族に内容を確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し食事・水分摂取量・排泄状況・日々の暮らしの様子を記入している。職員の気づきも記録や申し送りにて話し合ったり情報は共有できるようにしている。ケアプランチェック表によりケアプランに沿って介護しているか一目で分かるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのデイサービス、ショートステイは実施していない。医療連携加算の指定は受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事として公民館の利用や、運営推進会議のメンバーに民生委員になっ てらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっ ている。受診通院はご家族と協力して 対応している。基本的には家族同行で願 いしているが、緊急時には職員が同行し ている。協力医療機関の定期往診も行っ ている。	定期的往診に3名の医師が訪問しており、 2週間に1回は歯科医師の口腔ケアの往診 がある。透析などでかかりつけ医を利用し ている利用者もいて、受診の支援がされ ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、24時間入居者の健康管理や状態の変化に対応できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者のきめ細かい情報を提供し、入院中はお見舞いを兼ねて状態の把握、退院後の支援にむける体制づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に本人、家族に事業所が対応できるケアの説明を丁寧に行なっている。	看護師が24時間体制ではないことなどから、施設内の看取りは困難であることを入居の契約時点で説明を行っている。このことは文書化され、利用者・家族に説明されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成している。昨年度より消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の初期対応の講習会を行っており、今後も定期的に継続していく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアルを作成している。避難訓練も定期的に行っている。運営推進会議の中で地域に根ざす事業所のあり方を指導していただき、地域住民に協力をお願いしている。	定期的な訓練が実施され、対応マニュアルも作成されている。職員はいつも対応を意識して勤務にあたっている。同じフロアの反対側に避難経路があり、利用者を誘導しやすい構造になっている。	地域住民の方に施設内見学の機会などを設け、災害発生時の協力を得やすい体制を作っていくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守ることが尊厳を守ることであるということを職員は理解している。トイレ・入浴介助だけでなくさまざまな場面での声掛けに配慮するように努めている。	利用者の何気ない言葉からもプライバシーの尊重について、職員が気づくことがあり、職員間で共有して配慮する努力をしている。	各種のマニュアルが整備されているが、プライバシーに関する項目が不足している。実践で行っている留意点について文書化やマニュアルの整備が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさまざまな場面で入居者が意思決定をできるよう支援している。毎日のティータイムのお茶・何種類かのお菓子・食事の調味料・着替えの洋服など、選択肢を用意し自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表に沿ってのケアとなっているが、できるだけ入居者の体調・希望に配慮して過していただいている。毎週日曜日はスローライフの日とし時間日課にとられない1日を過していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは皆様の好みで更衣していただいている。化粧やおしゃれなど今までの週間を理解し支援するよう取り組んでいる。お化粧に時間のかかる方もいるが、ゆっくりお化粧していただけるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、調理、盛り付け、片付けなども入居者と一緒に行き、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るような雰囲気作りを大切にしている。月に1~2回リクエストに応じたメニューを作って楽しんでいただいている。	食材の購入は施設で共同だが、調理はすべてそれぞれのフロアで行っており、献立もその日の状況に応じて利用者と職員で臨機応変な工夫を行っている。特にスローライフの日には食事時間も個人の生活ペースにあわせた工夫を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録している。その人の健康状態や習慣により満足いただけるような量を設定している。献立は栄養士が作っているが、給食会議があり入居者に喜んでいただける献立についての意見を言い、要望に沿えるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回の歯科往診をしていただき入居者と職員共に、口腔ケアの指導を受けている。入居者に毎食後声掛けし歯磨きをしてもらい、不十分な所は歯科衛生士の指導に従い介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の体調やタイミングの把握に努め、誘導する事によりなるべく失敗のない排泄をしていただけるようにしている。また尿意の訴えない入居者には、排泄チェック表により誘導しトイレで排泄していただけるよう支援している。	排泄の状況を印で失禁か否かを区別し、排泄リズムの把握に努めている。職員は失禁でないように支援することに意欲的である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘による影響を理解している。ただ下剤に頼るのではなく、なるべく身体を動かして自然排便が出来るよう取り組んでいる。野菜をとっていただけるよう調理の工夫や水分摂取・牛乳・ヨーグルトなど本人がなるべく自然に排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間以外は入居者の入浴したい日・時間の希望を聞いている。また女性入居者に男性職員が介助に入るときには個々に配慮している。その日入浴できなかった方には清拭および足浴をしている。	失禁があった場合は、シャワーなどの利用をしている。身体的に必要な場合は機械浴の設備の利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、適度な刺激により安眠や休息が取れるように支援している。寝付けないときは温かい飲物や1対1の対応など配慮している。居室で落ち着かない入居者にはホールソファで眠くなるまで寄り添うことも多い。または足浴にて気持ちよく寝られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の理解を深めるように努めている。薬の変更があった時には、目的・副作用・用量などの情報は職員間で共有できるようにしている。服薬時は、職員によるダブルチェックで服薬確認をしている。症状に変化があった時には、看護職員や医療機関と連携を図れるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意分野で持てる力が発揮できるように支援している。生活歴の中から自信回復につながりそうな作業をしていただいている。それ以外にも達成可能な仕事をお願いし、必ず感謝の意を伝えるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1～2度は合同か個別で外出をしている。また散歩は日常的に行えている。日頃の希望などを聞いて職員の余裕のある時に買い物や参拝などを行っている。個別外出に取り組んでからは各職員の応用範囲が広がり外出が容易になり回数も増えている。	近所の地藏尊へのお参りや職員とドライブに出かけたり、時には希望する映画館へ外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かり事務所で管理している。ご家族の了解を得て手元に少額の現金も保管されている方もおり、神社の参拝に行った時のお賽銭に使われたりしている。お金を使うことは自己決定を良い機会ととらえ、もっと多くの入居者がお金を使える機会を作りたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望で、可能な場合は事務所から家族にかけてもらっている。また1階の公衆電話まで付き添える時間を伝え、電話を利用していただいている。手紙は宛名を代筆したり、やり取りができるよう支援している。年賀状は毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールとキッチンが隣接しておりお米を研ぐ音、味噌汁や魚の焼く匂いなど、生活に根ざした刺激が感じられるようになっている。ホールソファで日向ぼっこを楽しんだりゆったりとテレビを観たりと、くつろいで過ごしていただけるようにしている。	周囲は住宅街で、フロアは建物内の2階、3階に位置しているため、静かな環境にある。共用スペースの窓は2面に広く大きいため、採光もよく明るい。植物や利用者の作品などで季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いて一人、又は気の合った人と過ごせるようにしている。またユニットの入り口を開錠しているときは有料老人ホームの談話コーナーを使用してもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの家具・調度品を持ってきてもらうように家族に伝えている。写真や装飾品でそれぞれの個性を出している。家族と過ごせるように畳を敷いている入居者もいる。	施設側のベッドや収納庫以外に各自が持ち込みの家具や家族の写真等で好みの飾り付けをしている。	

グループホーム すずらん(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には花の名前をつけて分かりやすくしている。トイレの場所が分らない入居者のために手作りで→印でお便所の方向を分かりやすく表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した暮らしが継続でき、また支えられるよう、地域密着型のサービスとしての理念を作り、職員は日々理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。また、朝礼で唱和している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩や買い物で挨拶をするなど地域との繋がりが広がるように努めている。またイベント開催時には家族や近隣住民の方への参加を呼びかけている。また自治会の清掃活動・防災訓練などにも参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会・民生委員の方達との話し合いはあるが、事業所が地域の方達にサービスを還元するまでには至っていない。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況、支援状況、行事報告、情報交換を行っている。また改善していきたいことについて質問・意見・要望をいただき、サービスの向上に活かし、その内容または結果を次回の会議で報告している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも相談、指導を受けられる関係作りを行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の身体拘束の具体的な行為に関しては施設全体で年に1回、勉強会にて職員は把握している。玄関の扉は日中は開放しているが、夜間のみ施錠している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で年に1回、勉強会を実施し高齢者虐待防止法の理解と虐待行為を発見した場合の対応方法について事業所で周知徹底するように取り組んでいる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が権利擁護事業や成年後見人制度について学んでいるとはいえない。まだ制度を利用している入居者はいないが、必要な場合は活用できるように支援していく体制は取っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には当事業所として、できるだけ時間を取り入居者やご家族の疑問・不安に答えるように努めている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族のご意見・不満・苦情は苦情解決マニュアルを作成し、全ての職員が受け付けられるような体制を取っている。苦情受付を自筆または職員の代筆にて受け付ける体制を取っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや勉強会において、代表者・管理者は意見や提案を聞く機会を設けている。また個別での面談も随時行っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は作成している。設立母体が医療機関である為、職員の健康診断・予防接種など健康を保つ為の対応は行っている。また、資格取得のための支援も行なっている。研修も積極的に参加できるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回施設全体・各部署においての勉強会を開催している。研修会・講習会の通知があった場合には早めに申し込み勤務調整を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟しているが、職員や管理者が同業者と積極的に交流する機会はない。リーダー研修での他施設実習から交流を持ちたいと思っている。系列事業所の職員が集まる親睦会を設けてお互いの交流を図っている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談の段階から本人の希望や不安などを傾聴し安心していただけるように努力している。入居後も本人と話す機会を多く持ち、施設生活に慣れ親しんでいただけるように不安を受け止められるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談の段階から本人の希望や不安などを傾聴し安心していただけるよう努力している。その段階で可能な限りの相談や助言はさせていただきようとしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の段階から困っていることの聞き取りを行い、即時的なニーズの把握に努めている。当施設より入居者にとって最適なサービスの紹介も行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として尊敬の念を持ち本人の生きがいなど、その方にあった生活をしていただけるよう心がけている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の様子やエピソードを(面会時や電話・家族報告書・すずらん便り)伝えることと、相互の信頼・協力関係を築くようにしている。病院受診などは、緊急時以外は家族に依頼し付き添ってもらっているようにしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り個人個人の生活習慣を理解し尊重している。また自宅に帰るのが家族だけでは方法的に困難な入居者は職員が付き添い自宅外出ができるように努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となるだけでなく、入居者の中でムードメーカーになる方にも力を発揮していただき、孤立した存在をつくらないように支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された入居者・ご家族には連絡を取り面会に行くなど関係を大切にしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、主体はあくまでも入居者であるという認識を持っている。言葉での表現が適切でないとしても表情や態度で意思を汲み取るようにしている。ただ意思表示の困難な方については、ご家族の意向が優先される傾向がある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、差し支えない範囲でバックグラウンドに関する情報をいただいている。特に施設に適應していただくまでの支援にとって重要な情報がある。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの習慣や心身の状況、生活リズムを把握し、可能な限り個人のペースを尊重するようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの新規・更新時には、必ず本人ご家族から要望を聞いている。職員全体でモニタリング、カンファレンスを行い、主治医・看護師・理学療法士・作業療法士・歯科医師等関係者の意見を取り入れ、可能な限り入居者主体の介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し食事・水分摂取・排泄状況・日々の暮らしの様子を記入している。職員の気づきも記録や申し送りにて話し合ったり情報は共有できるようにしている。ケアプランに沿って介護しているか表によりチェックしている。

グループホーム すずらん(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのデイサービス、ショートステイは実施していない。医療連携加算の指定は受けている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事として公民館の利用や、運営推進会議のメンバーに民生委員になってもらっている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、協力医療機関(3医院)が定期的に診察することを説明し、同意を得るようにしている。専門的な診療などの受診、通院はご家族と協力して対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に対応している。また24時間連絡が取れる体制になっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者のきめ細かい情報を提供し、入院中はお見舞いを兼ねて状態の把握、退院後の支援にむける体制づくりをしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を作成して、入居時の契約の際、事業所が対応できるケアの説明をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、発生時に備えている。年1回消防署を招いて、救急手当や蘇生術の初期対応の講習会を行っている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、避難訓練は定期的に行っている。運営推進会議の議題としても取り上げ、地域の協力を得るには普段の近所付き合いが大切であるという意見をいただいた。自治会・行事に参加し、散歩・買い物を入居者で行うことで協力を得られるような関係作りを日常的に行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に個人情報の秘密保持を徹底し、日々の関わり方を管理者が点検し、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事が複数ある場合は選択していただく様に配慮している。いくつかある菓子・外食のメニュー選び・日々の買い物など、判断・決定の機会を捉えて活かすように日常から心がけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者との共同作業を通じて共に歩むケアに取り組んでいる。どのように過ごしたいか？を具体的に表現できる方は一部で、何を行えば集中してもらえるか、楽しんでもらえるか、笑顔を見せてもらえるか。できる事・できない事・できるが今日はしない事にも配慮。これらに視点を置いて支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温に合った衣類の調整に努めている。自宅から持参したお好きな衣類を着用していただいている。できる方は自由な着こなしをしていただき、できない方は衣類をご本人のイメージに合わせて職員が見立てている。天候や行事を考慮して職員が支援する事もある。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事作りを入居者と一緒に行ない、入居者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気作りを大切に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作りとなっている。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。また1カ月に1回栄養士を含めた給食委員会を開催して献立・食材などについて意見交換を行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回の歯科往診をしていただき入居者と職員共に、口腔ケアの指導を受けている。入居者に毎食後声掛けし歯磨きをしてもらい、不十分な所は歯科衛生士の指導に従い介助している。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期に合わせたトイレへの誘導・声掛け・介助を入居者別に行っている。また、入居者の仕草・落ち着かない様子などのサインを読み取り支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より水分摂取に取り組んでいる。野菜をあまり好まない方には食べやすくカットしたり味をつけたりと工夫している。排泄状況も職員間で共有している。散歩・体操・牛乳など便秘によさそうなものは随時取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回入浴していただいている。希望があれば随時対応している。時間は夜間以外、1日を通して希望の時間に入浴できるように取り組んでいる。機械浴を利用される入居者は他部署との関係で曜日・時間の制限がある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者の体調の変化に合わせて、ホールのソファで過ごしてもらったり、自室での臥床を促している。その際は随時様子を見に行っている。また夜間、寝つけない時には、温かい飲み物などを飲みながら対応するなど配慮している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人の内服薬リストを作成している。職員が内容を把握できるようにしている。薬は本人に手渡し服薬確認を行い介助が必要であれば内服介助を行っている。状態変化時は看護職員や協力医療機関との連携を図るように努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が日課で仕事がないと落ち着かない方、家事をしたいが自信がないから引いてしまう方等々お互いの関係を調整しつつ毎日行っている。気分によっては職員と一対一で居室で会話したり、買い物や散歩へ行くなどしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・近所への買い物・遠方への買い物など、自発的な要望を伺ったり会話の中で出てくる事柄から推察して、行きたい所・見たい物・欲しい物のある場所にしている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	意向がある場合は、ご家族の同意の上で紛失することも前提に小額の金銭の管理をご本人に託している。ご家族よりお金を預かり事業所が管理している入居者は、外出時などでは、お金を渡して自分で払ってもらえるように工夫している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの電話の希望があれば、事業所内の電話を使用させていただいている。年賀状・暑中見舞いのハガキなどは毎年出せるような支援を行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓のない廊下側は常に明るくし、フロアにはソファを設置し入居者がくつろげるようにしている。また居心地のよさや心身の活力を引き出す為に、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えるように努めている。

グループホーム すずらん(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き、一人で過ごしたり、少人数で過ごしたりできる空間を作っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みの物や馴染みの物を入居者・家族と相談しながら用意していただき、入居者の居心地が良いように配慮している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが何処か分からない入居者にはトイレの場所に大きく「便所」という張り紙を貼っている。また分かることでできることが増えるように工夫をしている。